

アジアの在日留学生における日本観光の動向

—— 観光学科所属留学生の余暇に関する調査を中心に ——

中山 恵利子

I はじめに

1983年に当時の中曽根内閣が「留学生受入れ10万人計画」を打ち出してから15年が過ぎた。この計画は当時約1万人の留学生数を2000年までに10万人にするというものである。しかし、我が国の高い生活コストや受入れ体制の不備に加えて最近の経済不況等の理由により1994年以降留学生数は頭打ちの状況である。2000年まで残り2年となった昨年1998年の留学生数は51,298人で、10万人の約半数にとどまっている。そのうちアジア諸国からの私費留学生が40,155人と78.3%を占めている¹⁾。彼らの生活の困難さは久しく語られているところであり、80年代後半のいわゆる「就学生問題」を機に、留学生や就学生の実態に迫る著書や論文があいついで刊行された²⁾。その多くは、留学生政策や制度、教育、居住条件、アルバイト等経済的側面、就職、さらには日本や日本人に対するイメージ、日本人との人間関係等異文化適応に関することなどを主な内容としており、現状と問題点を浮かび上がらせている。そのような中であって、本稿のように「観光」に関する調査を行っているものは、管見の限りでは、川野（1982）と柄原（1996）の二冊のみである³⁾。「観光」は余裕のある人たちの娯楽という感が否めず、それよりも優先すべき切実な問題が山積している、ということの現れなのだろうか。

元来「留学」と「観光」とは誤解を生じやすい結びつきだと言えるであろう。留学生とは学問のために来日している人々のことであって、遊びが目的の観光客でも金儲けが目的の商売人でもないはずだ、などといった批判を時に耳にすることもある。しかし、筆者の留学時代を思い返しても、留学生が留学期間中に可能な限りその地を観光しておきたいと考えるのはごく自然なことである⁴⁾。また、最近は観光を専門とする学科ができ、そこで学ぶ留学生も出てきている。彼らの目的は「観光を学ぶこと」である。換言すれば、「観光」を学問の目的とする留学生が存在しているのであり、彼らにおいて「観光」と「留学」とは順当な結びつきとなるのである。「観光学」はいずれサービス業に就くことの多い分野であるから、「最高のサービスを受けたものでなければ最高のサービスはなしえない」とは言わずとも、実際に体験をしなければ得られない知識も経験も必ずや存在するはずである。

そこで、本稿では、本学の観光学科の留学生を中心に、本学の他専攻の学生との比較を行いつつ、彼らの観光の実態について調査分析を行う。なお、本稿は1998年度阪南大学産業経済研究所助成研究「外国人観光客の動向と地域振興に関する研究」の成果報告の一部であり、筆者に与えられたテーマは「アジアの在日留学生における日本観光の動向」であるので、対象はアジア人学生に限ることとする。

II 調査の概要

調査は二回に分けて行った。調査紙は二種類（資料1，2参照）で、一つは全学部留学生対象の

「余暇に関する調査」(以下、余暇調査と呼ぶ)、もう一つは観光学科の留学生対象の「観光学専攻に関する調査」(以下、観光調査と呼ぶ)である。本稿では、観光を余暇に行う遊び、娯楽の一種と位置づけ、余暇調査を行った。調査対象は、本学に在籍する1999年7月現在3回生以下のアジア(中国、台湾、韓国、越南)からの私費留学生である。なお、調査後退学した学生も含まれている。

〔第一回調査〕

調査時期 1998年10月
調査方法 調査紙法(不明な点等は面接法により補足した)
調査内容 「余暇に関する調査」
調査対象 全学部留学生1,2回生 34名(うち観光学科の留学生24名)
調査紙配付42名・回収率81%

〔第二回調査〕

調査時期 1999年6月
調査方法 調査紙法(不明な点等は面接法により補足した)
調査内容 ①「余暇に関する調査」 ②「観光学専攻に関する調査」
調査対象 ①全学部留学生1回生と第一回調査で回答しなかった2,3回生 44名(うち
観光学科の留学生22名) ②観光学科の留学生 36名
調査紙配付①48名 ②40名・回収率①92% ②90%

以上、二回の調査について、調査紙別に調査対象数をまとめなおすと次のようになる。

〔調査紙別調査対象数〕

「余暇に関する調査」 観光学科生46名・他専攻生32名 計78名
「観光学専攻に関する調査」 観光学科生36名 計36名

なお、参考までに調査対象数を国籍別に表1に載せておく。

表1 国籍別調査対象数

()内は観光学科生数/他専攻学生数

	中国	韓国	台湾 ⁵⁾	ベトナム	合計
余暇に関する調査	55 (27/28)	11 (9/2)	10 (8/2)	2 (2/0)	78 (46/32)
観光学専攻に関する調査	21	7	8	0	36

Ⅲ 余暇調査の結果

1. 留学生の生活背景

留学生の余暇の過ごし方について見ていく前に、彼らの生活背景について触れておこう。余暇調査の回答者は78名である。男女比は38対40、平均年齢は24.7歳、最年長が32歳、最年少が19歳である。既婚者は7名、うち4名は子供が本国にいる。居住形態は一人暮らしが62名で約8割、残る16名は家族や兄弟、恋人、友人、保証人と同居している。日本での平均滞在月数は21.3か月で、最長が60か月、最短が1か月である。経済状態は全員が私費留学生で、本国からの仕送りのある者は37名、主

たる収入源が仕送りだけの者は13名である。13名の内訳は、台湾8名、韓国3名、中国2名となっている。仕送りがなくアルバイト（奨学金を受けている者もいる）だけで生活している者は41名で、うち韓国が1名、ベトナムが2名、中国が38名となっている。但し、収入については同金額であっても、その人の状況により満足度は異なるので、今回の調査では収入源だけでなく、表2のように自己の経済状態について5段階で満足度を回答してもらう形で補うこととした⁶⁾。

表2 経済状態への満足度

数字は人数 () 内は%

国籍	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	計
中国	0	3 (5.5)	28 (50.9)	8 (14.5)	16 (29.1)	55 (100)
韓国	0	0	9 (81.8)	1 (9.1)	1 (9.1)	11 (100)
台湾	3 (30.0)	1 (10.0)	5 (50.0)	1 (10.0)	0	10 (100)
ベトナム	0	0	0	2 (100)	0	2 (100)
全体	3 (3.9)	4 (5.1)	42 (53.8)	12 (15.4)	17 (21.8)	78 (100)

「満足、やや満足」と回答した学生は7名で全体の1割弱、そのうち台湾の学生は4名と半数を超え、台湾人留学生の中でも4割に上る。反対に「不満、やや不満」と回答している学生は29名で全体の4割弱を占める。そのうち中国が24名で8割を占め、中国人留学生の中でも4割を超える。ベトナムは「やや不満」が2名で100%である。台湾の10名のうち、全員が仕送りを受けている上、仕送りだけで生活しているのは8名もいることから、このような結果が生じたと考えられる。また、「不満、やや不満」を選んだ学生にはその理由も記述してもらった。記述内容は二種類に大別できる。即ち「生活そのものが苦しい」という陳情型と「思ったほど旅行ができない」等の欲求不満型である。前者は23名で中国とベトナムの学生に限られており、後者は6名で韓国と台湾の3名に中国の2名が加わる。以上、本調査の結果を見る限りでは、経済状態については、中国の半数近くとベトナムの留学生が厳しい状況に置かれていると言える。

2. 留学生の余暇の過ごし方

余暇調査では、まず「一番ほっとする時間」と「一番楽しい時間」がいつかを尋ねた。

表3 一番ほっとする時間

休み、バイト後	43 (55.1)
寝ているとき	8 (10.3)
テレビ等視聴時	5 (6.4)
授業中	5 (6.4)
なし	5 (6.4)
友人家族といるとき	5 (6.4)
レポートテスト終了後	4 (5.1)
飲食、満腹時	2 (2.6)
授業料納入後	1 (1.3)
計	78 (100)

表4 一番楽しい時間

表3, 4 共数字は人数 () 内は%

友人家族といるとき	20 (25.6)
休み、自由時間	16 (20.5)
寝ているとき	11 (14.1)
授業中	11 (14.1)
なし	8 (10.3)
テレビ等視聴時	4 (5.1)
バイト中	3 (3.8)
飲食時	3 (3.8)
帰国時	2 (2.6)
計	78 (99.9)

その結果を表3と表4に示す。「ほっとする時間」としては、半数以上が「休み」を挙げ、そのうち15名が「バイト後」と明確に指定している。普段の日はバイト後寝るまでの時間が唯一の自由時間即ち余暇であるという学生が多い。予想外の回答に「授業中」がある。「嘘だともうかもしれないが本当に」との前置きを信用すれば、その理由は「勉強したら知識が増え充実感があるので安心する」「好きなことが勉強できる時間が一番ほっとする」等ということである。一方、「楽しい時間」として「寝ているとき」と答えている学生が1割を超すが、この理由は「普段睡眠不足なので、休みの日など寝ていられるのが一番幸せ」「毎日忙しくて単調な生活をしているから寝て夢を見る時間が一番楽しい」等である。その一方で、「ほっとする時間」も「楽しい時間」も「なし」と回答している学生が存在することも指摘しておく。

では、余暇（この設問では1, 2日の休みの日）を迎えたとき、留学生は何をするのであろうか。20の選択肢と自由記載のその他を回答として設けた結果、上位五位までの回答（複数回答可）は次の通りである。第一位「料理や掃除洗濯など家事をする」（51名）、第二位「テレビを見る」（48名）、第三位「音楽を聞く」「寝る」（各46名）、第五位「友達と会って話す」（31名）。ほとんどが家の中でできることで、しかも一人でできることである。相手が必要なことはようやく第五位に現れる。20の選択肢の中には「美術館や博物館に行く」「ハイキングに行く」「温泉に行く」などといった観光も用意したが、選択者は10名以下で、下位五位以内であった。1, 2日の休みでは明日からの英気を養うべく、休養に徹する学生が多いことが分かる。余暇を誰と過ごすことが多いかという質問には「一人」が39名、「友人と」が37名で、二分された。複数回答をしている者がいたので、「一人」とだけ答えた学生と「誰かと（友人、家族、恋人、先輩後輩）」と答えた学生（「一人」と他の回答を複数回答した場合は「誰かと」に数える）に分けると、33名対45名になる。「一人」で過ごすと答えた学生が上記設問における選択項目数は平均約4, 「誰かと」過ごす学生のそれは約6であり、「誰かと」過ごす学生のほうが余暇の過ごし方が多彩になると考えられる。

次に、長期の休暇に何をするかを尋ねた⁷⁾（複数回答可）。最多は「アルバイト」の49名、次いで「帰国」35名、「勉強」25名、「旅行」17名と続く。旅行については観光学科生が46名中11名（24%）、他専攻学生が32名中6名（19%）となっており、若干観光学科生が多いが、t検定の結果は0.217で、有意差は見られない。「帰国」については、今年一年間で何回帰国する予定かを尋ねたところ、表5のような結果が得られた。帰国する学生は60名（76.9%）、帰国しない学生は18名（23.1%）である。韓国は距離の近さと航空運賃の安さが理由で帰国回数が一番多いが、帰国期間は平均約二週間である。台湾の学生は前述のとおり仕送りだけで生活している学生が多くアルバイトの必要が低いからか、帰国期間は平均1か月強と長い。また、既婚者7名の平均帰国回数は2.0、平均帰国期間は三週間強と高い値を示す。これは、本国に残した家族のことを思えば、当然の結果であろう。

表5 国籍別一人当たりの年間帰国回数

国籍	中国	韓国	台湾	ベトナム
回数	0.9	1.9	1.6	1.0

3. 留学生の旅行事情

1) 旅行の目的

人はなぜ何のために旅行するのか。旅行が好きだという留学生76名がこの問いに出した答えは表

表 6 旅行の目的・理由

数字は人数

	観光	他専攻	計
見聞を広げ、経験を積むため	19	13	32
リラックス、気分転換、ストレス解消するため	10	11	21
好き、楽しい、子供のときからの夢だから	6	7	13
理由なし	4	1	5
好奇心を満たすため	3	1	4
自分を振り返るため、自分発見のため	2	0	2
生活を充実させるため	1	0	1
友人と親しくなるため	1	0	1
計	46	33	79

6の通りである。回答は自由記述であるが、集計の便を図るため、上記のように八大別した（自由記述のなかに複数にまたがるものがあるので、合計数は多くなる）。

上位六項目に関しては観光学科生と他専攻学生との間に大差は見られないが、「自分を振り返る」「生活を充実させる」「友人と親しくなる」の三項目は他専攻学生からは得られなかった回答である。旅行を通して自己を見つめるという視点は旅行に対する余裕を感じさせる。なお、旅行が好きではない留学生が観光学科と他専攻学科に各1名おり、その理由は「家だけが好き」「興味がない」である。観光学科に所属しながら旅行が好きではないという学生には矛盾を感じるが、この学生の学科志望動機が「指定校推薦による進学をしたので選択の余地がなかった」であることを知れば、致し方ないと納得せざるを得ない。また、観光学科生2名と他専攻学生1名の計3名が、「旅行は好きだが、日本では旅行は好きではない」と回答している。その理由は「お金や時間がなく不可能だから」である。物理的要因が精神面に与える影響を窺わせる回答である。

2) 旅行の経験

ほとんどの留学生が旅行好きであることを確認した上で、次に、実際に日本に来てからの旅行経験を見てみよう。結果を表7に示す。表7-Aは旅行経験のある者、表7-Bは旅行経験のない者である。ここでの旅行には日帰り旅行も含まれている。表7によれば、全体の6割が旅行経験を有する。中国人学生は約半数が旅行経験があり、観光学科生と他専攻学生とを比較すると、若干観光学科生のほうが経験者が多い。中国以外の国籍の学生は8割から10割の率で旅行を経験している。こちらは他専攻学生の人数が少ないまたはいないため、専攻による差には言及しえない。なお、前述の旅行は好きではないと回答した2名のうち、経験者は1名である。

表 7-A 専攻別・国籍別旅行経験者数

旅行経験者数/総数 () 内は%

	中国	韓国	台湾	ベトナム	計
観光	15/27 (55.6)	7/9 (77.8)	6/8 (75.0)	2/2 (100)	30/46 (65.2)
他専攻	14/28 (50.0)	2/2 (100)	2/2 (100)	—	18/32 (56.2)
計	29/55 (52.7)	9/11 (81.8)	8/10 (80.0)	2/2 (100)	48/78 (61.5)

表7-B 専攻別・国籍別旅行未経験者数

旅行未経験者数/総数 () 内は%

	中国	韓国	台湾	ベトナム	計
観光	12/27 (44.4)	2/9 (22.2)	2/8 (25.0)	0/2 (0.0)	16/46 (34.8)
他専攻	14/28 (50.0)	0/2 (0.0)	0/2 (0.0)	—	14/32 (43.8)
計	26/55 (47.3)	2/11 (18.2)	2/10 (20.0)	0/2 (0.0)	30/78 (38.5)

3) 旅行未経験の理由

旅行を経験していない30名にその理由について尋ねたところ、表8のような結果が得られた。他専攻の学生で旅行未経験者は中国人学生のみである。

表8 国籍・専攻別旅行未経験の理由

数字は人数 () 内は%

	中国・観光	中国・他専	韓国・観光	台湾・観光	計
お金と時間がない	5	8	1	0	14 (46.7)
お金がない	2	2	0	0	4 (13.3)
時間がない	5	4	1	1	11 (36.7)
友人がいない	0	0	0	1	1 (3.3)
計	12	14	2	2	30 (100.0)

専攻による違いはほとんど見られず、国籍別人数も少ないので、合計数で見えていこう。「お金と時間がない」が半数弱で、次いで「時間がない」が来る。「お金がない」と「お金と時間がない」を合わせて18名、「時間がない」「お金と時間がない」を合わせて25名であることを考慮すると、第一の原因は「お金」よりも「時間」ということになろう。学生には長期休暇があるにも関わらず「時間がない」と回答する原因について三つの予測を立ててみた。

まず一つは、調査時点での滞在期間が短いため、日本で長期休暇を迎えていない場合である。これに該当するのは、今春来日し6月に第二回調査を受けた中国人学生2名である。彼らの滞在月数は2か月弱であり、1名は「お金と時間がない」もう1名は「時間がない」を理由に挙げている。旅行経験と滞在期間との関係を調べてみると、旅行未経験者30名の平均滞在月数は16.3か月、旅行経験者48名の平均滞在月数は24.4か月と平均で8か月の差があり、明らかに両者の間には相関があることが分かる。即ち、滞在期間が長くなれば旅行経験も増える傾向にあると言える⁸⁾。

二番目の予測は、「お金がない」にも関連するが、長期休暇にアルバイトをするため時間がなくて旅行ができないというものである。前節で見たとおり、長期休暇にアルバイトをすると回答している学生は49名と対象総数の6割を超えている。普段は生活費を稼ぐぐらいのアルバイトをして、長期休暇に学費を稼ぎだす、というスタイルをとっている留学生は少なくない。長期休暇のアルバイトと旅行経験との関係について調べた結果、旅行未経験者30名中長期休暇にアルバイトをする者は24名と8割に達し、旅行経験者48名中25名の5割強に比べ、割合が高くなっている。また、長期休暇にすることはアルバイトだけまたはアルバイトと勉強だけと回答した学生は旅行未経験者が17名

(56.7%), 旅行経験者が13名(27.1%)であり, 割合は倍以上の開きがある。従って, アルバイトのために旅行ができない学生も存在すると考えられる。但し, 長期休暇にアルバイトと旅行をすると回答している学生も9名おり, 全ての学生がアルバイトと旅行を両立できないわけではない。

最後に考えられる予測は, 長期休暇に帰国するため時間がなくて旅行ができないという理由である。前節で長期休暇に帰国すると回答している学生は35名で, 対象総数の4割強である。但し, 注(7)で述べたとおり, この設問の長期休暇とは具体的な1回のみ長期休暇であり, 全ての長期休暇で帰国しているかどうかは分からない。それを補うものとして, 今年一年間で何回帰国する予定かという設問を設けた(同節参照)。その設問の回答によれば, 一回でも帰国する学生は60名, 全く帰国しない学生は18名である。この結果を用いて, 帰国と旅行との関係を調べてみたが, 旅行未経験者30名中帰国する学生は18名(60.0%), 帰国しない学生は12名(40.0%), 旅行経験者48名中帰国する学生は42名(87.5%), 帰国しない学生は6名(12.5%)となり, 相関は全く見られない。大学の長期休暇は春夏秋冬と年に3回もあり, 1回帰国したところで旅行ができないということにはならないのであろう。そこで, 帰国回数が2回以上の学生25名を対象に調べなおしたが, 旅行未経験者が6名なのに対し, 旅行経験者が19名となり, やはり帰国が旅行を阻んでいるという傾向は出てこなかった(表9参照)⁹⁾。それどころか, 帰国回数が2回以上の学生の平均宿泊旅行回数は2.1回で, 帰国回数が1回以下の学生の平均宿泊旅行回数0.9回を大きく上回っていることが分かった。つまり, 帰国回数が多い方が旅行回数も増えているのである。これは, 帰国するということは費用がかかる上, アルバイトができなくなることにもなるので, 例外はあるものの一年に何回も帰国できるということは経済的条件が整っているということを示していると考えられる。従って, 第三の予測は覆され, 「長期休暇に帰国をする回数の多いほうが旅行回数が増える傾向にある」と言えよう。但し, 表10に見るように, 帰国回数と旅行回数は比例するとは言えない。

表9 2回以上帰国する学生の国籍別平均帰国回数と平均旅行回数

	中国12名	韓国8名	台湾5名	計25名
平均帰国回数	2.1	2.5	2.4	2.3
平均旅行回数	1.5	2.3	3.4	2.1

表10 帰国回数と旅行回数の関係

帰国回数	0	1	2	3	4
人数	18	35	19	5	1
平均旅行回数	0.4	1.1	2.2	1.8	2

また, 経済状態に対する不満度と旅行経験との関係を調べると, 旅行未経験者の不満度は3.6で, 旅行経験者の不満度3.25より0.35ポイント高くなっている。また, 旅行未経験の理由として経済的要因を6割の学生が挙げており, 無視できない要因であることは確かである。

以上のことから, 旅行未経験の第一の理由は, 滞在期間の短さやアルバイトにより「時間がないこと」, 第二の理由は「お金がないこと」であると結論付けられる。

4) 旅行の内容

旅行を経験したという48名（全体78名の6割強、表7-A参照）には、宿泊旅行と日帰り旅行に分けて、何回旅行したか、どこへ行ったか、宿泊の場合は何泊したか、費用は誰が払ったか等について尋ねてみた。

まず、宿泊旅行について表11を参考にしながら見ていこう。旅行経験者とはいっても、日帰り旅行のみの経験者も8名いるので、宿泊旅行は対象が表7-Aとは異なる。中国の旅行経験者29名中観光学科生の2名と他専攻学生の4名合計6名が日帰り旅行のみの経験者で、宿泊旅行経験者は23名（観光学科生13名、他専攻学生10名）となり、韓国の旅行経験者9名中観光学科生の2名が日帰り旅行のみで、宿泊旅行経験者は観光学科生5名、他専攻学生2名の計7名となる。台湾とベトナムは、旅行経験者は全員宿泊旅行経験者である。合計40名の宿泊旅行回数は101回、一人当たり平均2.5回である。最多回数は6回で観光学科生の2名である。最少は1回で京都や和歌山など近場の1泊で、観光学科生2名、他専攻学生4名の計6名である。観光学科生と他専攻学生とを比較すると、旅行回数・宿泊数共に、観光学科生のほうが若干多いことが分かる。この原因を前項で見た「時間」と「お金」の二要因において探してみよう。まず、「時間」であるが、宿泊旅行経験者の専攻別平均滞在月数は観光学科生23.8カ月、他専攻学生27.2カ月であり、滞在期間については短い観光学科生のほうが旅行回数が多いという結果になり、前項の結果とは矛盾を生じる。しかし、今年の休みはアルバイトだけまたはアルバイトと勉強しかしないと回答した人数は、観光学科生7名（26.9%）、他専攻学生5名（35.7%）であり、アルバイトにより「時間がない」学生の占有率は他専攻学生のほうが高いことがわかる。さらに経済的不満度は、観光学科生3.1、他専攻学生3.3となる。このことから、宿泊旅行経験者に限ってみると、経済的不満度が低めで来日後早い時期から長めの宿泊旅行を経験しているのは、観光学科生に多いと言えよう。また、国籍別では、韓国は回数は多いが泊数が少なく、台湾は回数は多くはないが泊数は多い。中国とベトナムは回数泊数共に他に比べると多くはない。前述の最少旅行回数1回近場1泊の6名は全員中国の学生である。これは帰国回数（表5参照）と帰国期間の国籍別状況と同様の傾向を示している。

表11 宿泊旅行内容

国籍	中国		韓国		台湾		ベトナム		合計・平均	
専攻	観光	他	観光	他	観光	他	観光	他	観光	他
人数	13	10	5	2	6	2	2	－	26	14
平均旅行数	2.5	1.8	3.6	3.0	3.0	2.0	2.0	－	2.8	2.3
平均宿泊数	2.3	1.6	2.1	1.0	2.3	2.5	1.3	－	2.0	1.7

宿泊旅行の行き先ベスト3は、ディズニーランドも含めた東京20名が圧倒の多数で、次いで白浜等和歌山の10名、京都7名と関西地区が挙がっている。遠いところでは、北海道5名と沖縄2名がある。

出費については、自費が旅行全数（101回）の7割強を占め、知人や団体に費用を負担してもらって連れていってもらった旅行は3割弱であった。

なお、観光調査において観光学科生のみにはあるが、宿泊先や同行者について質問をしたので、参考までにその結果を記しておく。回答数36名中宿泊旅行経験者26名、全旅行回数は69回である。宿泊先については、旅館やホテル等が45回（65.2%）、友人や親戚宅が23回（33.3%）、車中泊が1回

(1.4%)である。また、同行者については、家族親戚が21回、留学生仲間が20回、日本人の友人が18回と、上位3位までがほぼ同数で全体の86%を占める。日本人の友人との旅行が3位に入っているのは予想外であった。日本人の友人との旅行の三分の一は、友人宅に泊まっている。また、一人で旅行しているのは4回だけで、4回とも留学生の友人を訪ねてその友人宅に宿泊している。

余暇調査に戻り、日帰り旅行について見てみよう。回答者は36名である。日帰り旅行については、旅行という言葉に囚われて回答しなかった学生もあり、数値の信憑性は低いと思われるので、回答内容の概観を述べるに止める。行き先は大阪、神戸、京都、和歌山、奈良と当然ながら関西5県が圧倒的に多い。しかし、中には日本語学校時代を関西以外の地で送った学生もあり、長崎や宮島、出雲なども回答されている。学校主催の団体旅行も半数以上が回答している。旅行回数は数えきれないと回答したのは3名のみであり、1回だけの者も7名いる。日帰りになると旅費は自費と団体費とが半々になる。

宿泊、日帰り全ての旅行を通して、良かった所、悪かった所を尋ねた。良かった所は京都「歴史がある、静か」7名、東京「大阪と全然違う雰囲気が良い、何でもある」6名、北海道「自然が雄大」3名である。「全て良かった」は4名、逆に「良かった所はない」は6名である。悪かった所としては、ほとんどの学生が「なし」と回答したが、東京「町が汚い、危ない」、和歌山「何もなかった」が2名ずつであった。

5) 旅行先の希望

旅行については、最後に、旅行希望地を尋ねた。観光学科生のベスト3は、北海道13名、東京12名、沖縄10名である。他専攻学生のベスト3は、北海道12名、沖縄9名、東京8名である。どちらも第4位に富士山が入る。希望地について、先行研究を見ると、川野(1982)が「北海道、近畿、九州(含沖縄)」の順で、栖原(1996)は「北海道、京都、沖縄」である。本学は関西に位置するので近畿や京都が東京になっているが、留学生にとって魅力的な観光地は年代差も地域(居住地域以外)差もさほど見られないことが分かる。

希望する理由は、北海道は「雪が見たい、スキーをしたい」東京は「首都を見たい、ディズニーランドで遊びたい」沖縄は「海がきれい、有名だ」富士山は「日本の象徴」である。観光学科生も他専攻学生も大差はなく、ステレオタイプのイメージが先行しているようである。「富士山とディズニーランドは帰国したら必ず人から聞かれるから」という理由もあった。全般に感じたことは「行ったことがないから」「他の人から〜と聞いたから」という理由も少なくなかった点である。そんな中で、「日本らしい風景に出会いたい」(金沢・日本の特徴の残る所)、「方言や文化習慣等を体験して習いたい」(名古屋・沖縄)という回答が観光学科生に2名ずつあった点は特筆すべきことであろう。他専攻学生には「自国に似ている」(沖縄)という回答があった。観光学科生のうち1名のみ「どこへでも行きたい」と回答し、他専攻学生のうち2名が「行きたい所はない」としている。さらに、世界の中でどこに行きたいか聞いてみた。観光学科生のベスト3は、アメリカ16名、ヨーロッパ5名、フランス4名である¹⁰⁾。他専攻学生のベスト3は、アメリカ、ハワイ、韓国がそれぞれ4名と並んでいる。アメリカとハワイを、ヨーロッパと欧州各国を、アジアとアジア各国を合わせると、観光学科生は、アメリカ19名、ヨーロッパ15名、アジア7名となり、アメリカとヨーロッパで7割を超えるが、他専攻学生は、アジア9名、アメリカ8名、ヨーロッパ5名となり、アジアに目が向いていることが分かる。そのアジアでも、韓国(4名)と中国(3名)という身近な国を挙げている。興味深いのは、中国を希望先としている3名が全員中国人学生であることである。その理由は「自分は中国人だがまだまだ中国の観光地を見ていないから」「中国はきれいな風景が多いので一番行きたい」「香港は中国の一部だから」である。また、韓国を希望している4名は中国の朝鮮族

であり、「親戚がいるから」「習慣も言葉も似ているから」等の理由である。観光学科生で自国を希望先としている学生は、香港を希望する中国人学生1名のみである。中国朝鮮族の観光学科生は韓国を希望先としていない。また、韓国人学生1名が「大学の台湾の留学生を見ていて行ってみたくなった」として台湾を希望先を選んでいいる。「希望先なし」としているのは観光学科生2名、他専攻学生3名であり、「どこでもいい」は各1名ずつである。

6) 旅行の情報源

前項で「他人の情報」を基に希望先を決めている学生が少なくないと述べた。そこで、観光調査では観光学科生が何から旅の情報を得ているのか調べてみた(全36名、複数回答可)。その結果、日本人の友人知人が16名でトップ、留学生仲間11名、日本語の旅行雑誌9名、旅行会社8名と続く。やはり留学生の世界では口コミの威力は大きいと言えよう。次に、旅行雑誌を見たこと買ったことがあるかについて聞いたところ、半数を超える20名が見たこともなく、10名は見たことはあるが買ったことはなく、残る6名が買ったこともある、であった。しかし、雑誌名まで書けたのは3名、そのうち旅行雑誌名を書いたのは1名であった。また、旅行会社へも半数以上の20名は行ったことがない。行ったことがある16名の目的は「航空券の予約購入をしに」が6名、「旅行の予約をしに」が6名である。「知人に会いに」「手伝いに」という回答もあった。

4. 観光学科生の学習目的

最後に、本稿の主旨からは外れるが、観光学科生だけに行った観光調査において本学への入学理由と将来の就職目標について尋ねた結果をまとめておく。まず、入学理由は大きく三つに分けられる。一つ目は建設的理由で「将来の仕事のため」(21名)、二つ目は嗜好的理由で「旅行が好きだから」「遊べるから」(11名)、三つ目は消極的理由で「推薦入試で選択不可能だから」「他大学に落ちたから」(4名)である。建設的理由は「専門知識を身につけ上を目指したい」という職歴のある学生9名の積極的理由をその中に含んでいる。将来は自国か日本で「通訳ガイド」(14名)、「ホテル関係」「旅行社関係」(各5名)、「貿易」(2名)、「スチュワーデス」「遊園地関係」「観光全般」(各1名)を希望している。「未定」は7名で、そのうち6名は嗜好的理由により入学してきた者である。消極的理由の4名が将来の目標を既に定めている点は予想外であった。

Ⅳ おわりに

以上、二つの調査の結果を見てきた。留学生の観光経験は経済状態と密接な関係にあり、観光経験を阻む二大要因は「時間がない」「お金がない」であるが、これはアルバイトに集約される。また、例外もあるが、帰国は観光経験と比例関係にあることが分かった。経済状態は国籍による傾向も確かに見られるが、正確には個人により大きく異なるので、平均値を見ることはあまり意味がないようにも思われる。それを承知で誤解を恐れずに結論付ければ、台湾と韓国の学生が全般的に観光経験が豊富である。また、さほど大きい差は見られないが観光学科生のほうが他専攻学生より観光経験が豊富なものが多い。観光経験のうちの宿泊旅行回数を見ると、観光学科生の最多回数は6回であり、他専攻学生の最多回数は3回であるし、平均値も観光学科生のほうが高い。しかしながら、観光学科生の中の差も無視できないほどに大きい。例えば、普段の余暇はたいてい一人でうちで過ごし、長期休暇はアルバイトのみ、帰国もせず日帰り旅行経験もなく観光とは無縁に過ごしている、という学生も数名存在するのである。観光学を志しながら、関西近辺の観光もままならない生活を送っているわけである。

本稿は実態調査に終始したが、今後は、ビザ取得等の問題があるため観光学科の留学生が海外研修から除外されている現状を踏まえ、実学を兼ね備えた観光学を学ぶ環境作りについての提言を課題としたい。

注

- 1) 留学生に関する数値は文部省学術国際局留学生課（1999年）7-8 ページによる。
- 2) 就学生問題とは、留学目的ではなく就労目的で日本語学校に入学する偽装留学問題のことである。栖原（1996）によれば、日本語学校の認定制度や就学生への入国審査の厳格化等の措置により、受け皿だった日本語学校の多くは廃校に追い込まれたが、不法就労者数にはまだ反映していない、とのことである。
- 3) 川野（1982）51-68 ページ。栖原（1996）122-123 ページ。
川野（1982）は、一節をさいているが、内容は旅行だけでなく、学会参加や機関訪問等も含んでいる。質問項目は、経験の有無と訪問先、未訪問の訪問希望地と不訪問だった理由の二つである。対象は国費留学生が7割を占める。また、栖原（1996）は三行の記述と四つのグラフを掲載するのみである。旅行経験、旅行形態、旅行しない理由、旅行希望地をその内容としている。対象は全員私費留学生である。
- 4) 観光白書等の統計には、海外から入国する外国人観光客数は掲載されているが、国内在住の外国人観光客数は出ていない。従って、在日留学生がどのくらいの割合で観光しているのかは不明である。
- 5) 本稿では、データ結果に明確な差が見られるため、中国大陆と台湾とは分けて論ずることとする。
- 6) 状況とは、収入源の種類や奨学金の有無、扶養家族の有無、家賃等生活環境の差などである。
- 7) 98年10月に行った第一回調査では、直前の夏休みに何をしたか、99年6月の第二回調査では、来る夏休みに何をするか、具体的イメージを描いて回答してもらった。
- 8) 但し、交換留学生等短期留学生の環境は恵まれている場合が多く、この限りではない。
- 9) 帰国回数2回以上で旅行未経験の6名の旅行未経験の理由は、「時間がない」が4名で、残り2名は「お金と時間がない」である。6名のうち3名は既婚者である。
- 10) 記述式にしたので大州名と国名、地域名が混在している。アメリカは合衆国を指す。

参考文献

- 異文化間教育学会編『異文化間教育5』アカデミア出版会、1991年。
 岩男寿美子・萩原滋『日本で学ぶ留学生』勁草書房、1991年。
 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社、1995年。
 川野重任編『在日外国人——その日本観——』大明堂、1982年。
 栖原暁『アジア人留学生の壁』NHKブックス765 日本放送出版協会、1996年。
 総理府編『観光白書』大蔵省印刷局、1999年。
 文部省学術国際局留学生課『我が国の留学生制度の概要 受入れ及び派遣』、1999年。

〔付 記〕

本稿は1998年度阪南大学産業経済研究所助成研究「外国人観光客の動向と地域振興に関する研究」の成果報告の一部である。

〔謝 辞〕

この調査に協力してくださった全ての留学生に感謝致します。

(1999年10月6日受理)

〔資料1〕

留学生の余暇に関する調査（第二回調査用）

氏名 _____

男・女 出身国・出身地 _____

年齢 _____ 歳

1：大変プライベートな質問ですが、あなたの家族構成について教えてください。

- ・結婚している はい／いいえ
- ・子供がいる はい（ 人）／いいえ
- ・日本で誰とくらしていますか。①一人 ②家族 ③恋人 ④友人 ⑤先輩・後輩
⑥その他（ ）

2：さらにプライベートな質問をさせていただきます。現在のあなたの経済状態についてお答えください。なお、これは集計する以外の目的には使用いたしませんので、正直にお答えください。

- ・国費
- ・私費→家族からの仕送り 月約 ____ 万
- ・ アルバイト 月約 ____ 万
- ・ 奨学金 月約 ____ 万

◇現在の経済状態について、どう思っていますか。

- ・満足している ・やや満足している ・普通である
- ・やや不満である ・不満である

◇上の問いに「やや不満」「不満」と答えた方は、理由を教えてください。

3：あなたが今一番ほっとする（安心できる解放される）時間とは、どんな時間ですか。

4：あなたが今一番楽しいと思う時間とは、どんな時間ですか。

5：あなたは現在学生なので、勉強やアルバイトなどに忙しいと思いますが、暇（1，2日）が出来たときには、どのように過ごしていますか。（いくつでもいいですので○をしてください）

- | | |
|-------------------|----------------|
| ・音楽を聞く | ・デートする |
| ・テレビを見る | ・友達と会って話す |
| ・ビデオを借りてきて見る | ・お酒を飲みに行く |
| ・映画を見る | ・ゲームセンターに行く |
| ・スポーツをする（何 _____） | ・カラオケに行く |
| ・スポーツを観る（何 _____） | ・美術館や博物館に行く |
| ・寝る | ・ハイキングに行く |
| ・料理や掃除、洗濯など家事をする | ・温泉に行く |
| ・友達を呼んでパーティーをする | ・おいしいものを食べに行く |
| ・パチンコをする | ・遊園地など遊べる場所に行く |
| ・その他 _____ | |

6：あなたは暇なとき、誰と一緒に過ごすことが多いですか。

①一人 ②家族 ③恋人 ④友達 ⑤先輩や後輩 ⑥その他 _____

7：日本で長い休み（春夏冬休み等）があるときは、何をしますか。

- ・アルバイトする ・勉強する
- ・帰国する ・ホームステイをする
- ・旅行する ・その他 ()

8：今年の夏休みは、どのように過ごす予定ですか。(注⁷⁾ 参照)

- ・アルバイトする
- ・帰国する (どのくらい _____)
- ・旅行する (どこへ _____ どのくらい _____)
- ・勉強する
- ・ホームステイする (どこで _____ どのくらい _____)
- ・その他 ()

8'：今年は帰国しましたか。 はい (回) / いいえ

今後今年中に何回帰国する予定ですか。 _____ 回

9：あなたは旅行が好きですか。その理由も答えて下さい。

はい → 理由

いいえ → 理由

10：あなたは国にいたとき、どのくらいの割合で旅行をしましたか。

(例：月に1回, 3月に1回, 半年に1回, 1年に1回)

11：日本に来てから、どのくらいになりますか。

_____ 年 _____ カ月

12：日本に来てから、旅行をしましたか。

はい いいえ

◇「はい」と答えた人は、何回旅行しましたか。思い出せる限り書いてください。

また、それは自費ですか、それとも学校の団体旅行ですか、誰かに連れていってもらったものですか。自費は自, 団体旅行は団, 連れていってもらった場合は連に○を付けて下さい。

☆泊まりがけ旅行 _____ 回

行き先 _____ () 泊 自団連
 行き先 _____ () 泊 自団連
 行き先 _____ () 泊 自団連
 行き先 _____ () 泊 自団連
 行き先 _____ () 泊 自団連
 行き先 _____ () 泊 自団連

☆日帰り旅行 _____ 回

行き先 _____ 自団連
 行き先 _____ 自団連
 行き先 _____ 自団連
 行き先 _____ 自団連
 行き先 _____ 自団連
 行き先 _____ 自団連

◇「はい」と答えた人は、行った中でどこが一番良かった／悪かったですか。

その理由も教えてください。

良かったところ _____

理由 _____

悪かったところ _____

理由 _____

◇「いいえ」と答えた人は、どうして旅行しなかったのですか。その理由を教えてください。

・お金がない

・行きたいところがない

・時間がない

・その他 _____

13：あなたが日本国内で、今一番旅行したい所はどこですか。その理由も教えてください（どこにも行きたくない人は、その理由を教えてください。）

行きたい所 _____

理由 _____

14：日本以外で一番旅行したい所はどこですか。その理由も教えてください。

（どこにも行きたくない人は、その理由を教えてください。）

行きたい所 _____

理由 _____

15：あなたの趣味は何ですか。

16：現在、日本でその趣味を十分にできますか。

はい いいえ

◇「いいえ」と答えた人は、その理由を教えてください。

理由 _____

ご協力ありがとうございました。

年齡

- 何年間

- 四

Page:15

5. あなたは日本の旅行雑誌を読んだことがありますか。

はい いいえ

→どんな雑誌ですか。 雑誌名 _____

あなたは旅行雑誌を買ったことがありますか。

はい いいえ

→どんな雑誌ですか。 雑誌名 _____

6. あなたは将来どのような仕事に就きたいと思っていますか。

どのような仕事内容か、日本で自分の国で、または他の国でやるのか、詳しく答えてください。
(例えば、ガイドでも自分の国の人を連れて外国に行くガイドなのか、自分の国に来た日本人をガイドするのか、現在の希望を書いてください。)

仕事内容 _____

仕事場所 自国 日本 その他 ()

7. あなたは日本で旅行会社に行ったことがありますか。

はい いいえ

→目的 _____

8. あなたは日本で観光関係のアルバイトをしたことがありますか。

はい いいえ

9. 8で「はい」と答えた人に質問します。

どこでどんな仕事をどのくらいしましたか。

場 所 _____

仕事内容 _____

期 間 _____ (何年何月から何年何月まで何年間)

現在もしていますか。 はい いいえ → どうして辞めたのですか。

理由 _____

10. 8で「いいえ」と答えた人に質問します。

観光関係のアルバイトをしてみたいですか。

はい いいえ → どうしてしたくないのですか。

理由 _____

→どんな仕事をしたいか答えてください。

場 所 _____

仕事内容 _____

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。